

普通ってなんだろう

安来市立第二中学校 二年生の作品

「障がいをもっているって恥ずかしいことなの？」私は母と話しているときにふとそう思いました。私の身近な人に、「統合失調感情障害」という障がいをもっている人がいます。その障がいの症状は統合失調症と気分障害の症状の両方が見られる疾患です。うつなどの気分障害の症状がなく、気分的に安定しているときに幻覚、妄想などの症状があるときに診断されます。

私は、実際にその症状が出ているときの姿を何度も見たことがあります。私がまだ幼かった頃は、その様子を見て、ただ騒いでいる人だと少し冷めて見ていましたが、一方で気持ちが落ち着かなかったです。私のはっきりと覚えているのは12歳の頃です。仕事から帰ってきた親が「苦しい」と言い始め、過呼吸になり、泣いていました。私はとても心配になりましたが、本当に突然だったので私も私の兄姉もどうしたらよいのか分からず「大丈夫？大丈夫？」としか声をかけることができませんでした。しばらくすると、過呼吸は治まったけれど、まるで人が変わったように何度も何度も同じことを私たちに聞いてきました。私たちも何度も何度も同じことを返事をしました。その時間は少しの時間だったかもしれないけど、私にとっては何時間もたったように感じました。もう、親は私の知っている親には戻らないのではないか。そう思った瞬間、涙があふれてきました。私を見ていた姉が私の様子を見て姉の部屋に連れて行ってくれました。私は少し落ち着いたので、もう一度親のいる部屋に戻り話すことにしました。もう夜中の2時を過ぎて、次の日学校もあったけど、このまま親を一人にしたくなかったし、何か悩みがあったら聞き、少しでも力になりたいと思いました。それでも何回話しかけても同じことを繰り返すだけでした。私は泣きながら「このままもう戻らないの？」と聞くと「なんで泣いているの？」と私の涙を拭いてくれました。それから一週間くらいたつとすっかり元通りになっていました。

それから一年後、また以前のような症状が出たので病院に行くと入院することになりました。退院するとすっかり良くなった様子で私は安心しました。

今、振り返ると、親が病気の症状が出たときに親を心配する気持ちと同時に「怖い」「なんで普通じゃないの」という否定的な気持ちをもちました。私は病気の人にしかわからない辛さや苦しさを知らうとせず、そんな思いをもった自分を後悔しました。私はその時「普通ってなんだろう？」と思いました。「みんなと同じだから普通？みんなと同じでないから普通ではない？」どんな人でもみんな一人一人違って個性をもっています。「自分は普通ではない」「普通にしないではいけない」などという言葉が誰かを苦しめているのかもしれないと思いました。障がいがあるからといって普通ではないのでしょうか。障がいは見て分かる障がいもあれば見た目には分からない障がいもあります。大なり小なり障がいをもっている人は珍しくありません。例えば、眼鏡をかけていけば目がいい人に比べたら障がいがあります。何が普通かは誰も説明できないと思います。普通ではないからといって差別をした

り、いじめたりすることは絶対あってはいけません。みんなが違うからこそ、そこに個性があるのです。だから私も、私の親を人と比べて恥ずかしいなどと否定的に見たりせず、どんな人に対しても偏見をもったり、差別したりしない人になりたい。